

科目名	医療安全管理学	担当教員	和田龍彦 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------	------	--------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	3年次	後期	1単位	講義

科目概要	<p>人の命を扱う医療現場においては、患者ならびに医療従事者が有害事象を起こさない、また会わないようにするための対策が常に求められている。医療機器の危険性や特徴を理解し、安全な取り扱いを身に付けることは医療人にとって必須条件となる。本講義では、医療機器の取扱いと安全管理、医療現場での安全管理体制の構築と安全環境を確保する心構え、さらに感染防止や医療ガスの取扱いなどを、具体例にそって習得する。</p> <p>医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う</p>
学習目標	<p>① 人の命と取り扱う医療機器の取扱いとその安全性について理解する。</p> <p>② 医療現場における安全管理体制を習得する。</p> <p>③ 有害事象の未然防止と発生事故への適切な対応策について理解する。</p>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	医療現場と危険性	医療安全とは、医療事故と有害事象、リスクマネジメント、医療事故調査制度。	医療安全管理と医療事故の実態を学び、リスクマネジメントや事故調査制度の説明ができる。	
2	生体物性と医療材料	生体の電気的特性と温度特性、生体の力学的特性と代用臓器、医用材料の特徴と安全性。	生体の機械的特性や電気的特性、温度特性や光特性、さらに生体用人工材料の説明ができる。	
3	生体計測（信号と雑音）	生体情報とは、生体情報の計測手段、センサと増幅器、雑音と信号、情報の保存と管理。	生体情報の計測構成とセンサの現状を習得し、雑音の低減策や医療情報管理の説明ができる。	
4	医療情報検出機器の取扱い	心電計と心電図、循環系疾患とその検出器、呼吸情報とその検出器、脳波・筋電の測定。	医療検出機器の安全な取扱いと管理ができ、代表的医療機器の構成や動作原理を説明できる。	
5	治療機器の取扱い	ペースメーカーの動作原理と取扱い、AEDの使用目的と安全性、手術用機器とは。	各種エネルギーを加える治療用機器の取扱いを学び、安全性やその管理について説明できる。	
6	医療設備の安全	院内設備とその安全、ISOとJIS、感電とマクロショック、院内停電とその対策。	医療電気設備の体系化と国内外の規格を習得し、院内設備の安全や停電対策の説明ができる。	
7	医療環境の整備と安全管理	電磁干渉とイミュニティ、電磁波による医療機器への影響、医療安全のための分析。	各種電磁波による医療機器への干渉と障害に係わる説明ができ、医療事故の分析ができる。	
8	医療ガスと感染防止	医療ガス、アウトレットとホースアッセンブリ、院内感染、滅菌と消毒、感染防止機器。	医療ガスの内情とその安全管理を習得すると共に、感染の要因とその対策について説明できる。	
評価方法		筆記試験(70%)、レポート(30%)で評価する。		
教科図書		教員作成教材		
参考図書		MEの基礎知識と安全管理 改訂第6版 日本生体医工学会 ME技術教育委員会 南江堂		
学習の準備		参考書もしくは事前に配布した資料について予習をしておくこと		
オフィスアワー		在室時はいつでも可		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経				

験	
---	--